

帝キネ声屋時代映畫

原作者 小國 比沙志氏
脚色者 森本 登良夫氏
撮影者 鍋本 肇一郎氏
主演者 市川百々之助氏

紹介

第二百四十三號

市川百々之助氏

霧島 直子娘

山下 澄子娘

「阪崎出羽守」をそつゝく。鏡直した自稱文藝映畫である。小國比沙志氏の原作は背景を鎌倉時代に代え、醜顔を跛に代えたのみで他は「阪崎出羽守」に鏡等變りがない。これで「原作云々脚色並監督も「双傷」より總觀すれば劣るが時を遡れても良くなればし得て居る點や最後の火事場が市川百々之助氏の天津四郎は小國氏が阪崎か氏に嵌めて書直した丈無理はないが扮装演技などは「双傷」の方がよかつた。最後のアロテスクな扮装も一概的容貌に同様如何にも醜悪になつて見て居て氣持ふが悪い。今後こんな扮装は避けた方が良いと思ふ。霧島直子娘の早百合姫は役の性格をしつかり掴んだ演出で妖艶極りなき麗の花を見事に演じて居る。森本監督の苦心もあらうが娘の持つ魅に此役を躍如せしめるに充分であつた。此分でゆけばやがて霧島全盛の時代も遠くもある。山下澄子娘の早月は「双傷」同様慎ましやかな女性を地味に演じて居る。鍋本肇一郎氏の撮影はゆつたりして鎌倉時代にふさはしい、やはらしい氣分を出して居て感しが良かつた。

興行價值——「劍難」姊妹篇にして「武士」に次ぐ百々之助の文藝映畫？加ふるに新名花霧島直子の恐ろしい魅力はファンを憚畏するに充分である。(十月廿九日京都キネマ俱樂部封切)

山本綠葉